

統合データベース講習会: AJACS本郷1

Refil John Resourch Inder for Service And Part of Service And Part

ライフサイエンス統合データベースセンター(DBCLS) 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構(ROIS)

> 三橋 信孝 2008年7月3日



アナトモグラフィーの場所



Anatomography = Anatomy + -graphy(画法)



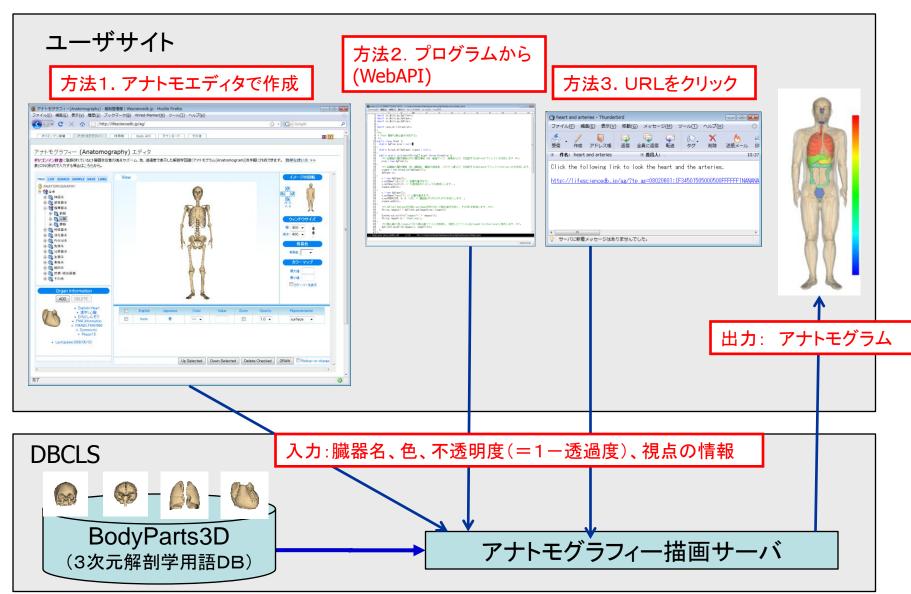


目次

- アナトモグラフィー(Anatomography)の仕組み
- 想定利用例
- BodyParts3D(3次元解剖学用語データベース)
 - 旧ポリゴンマン辞書(~6/30)
- 今後の開発予定
- 基本的な使い方のデモ(復習)

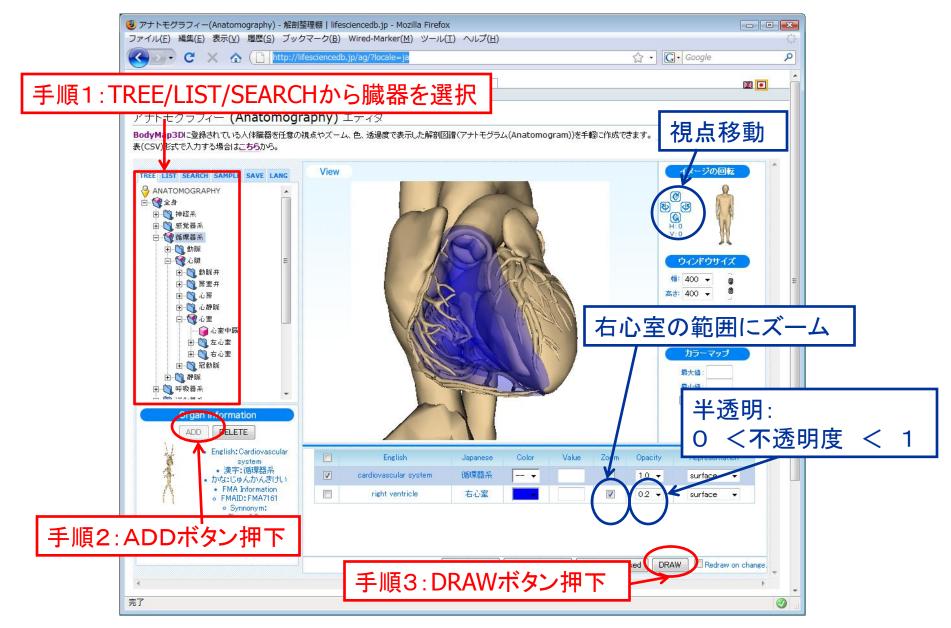


アナトモグラフィーの仕組み



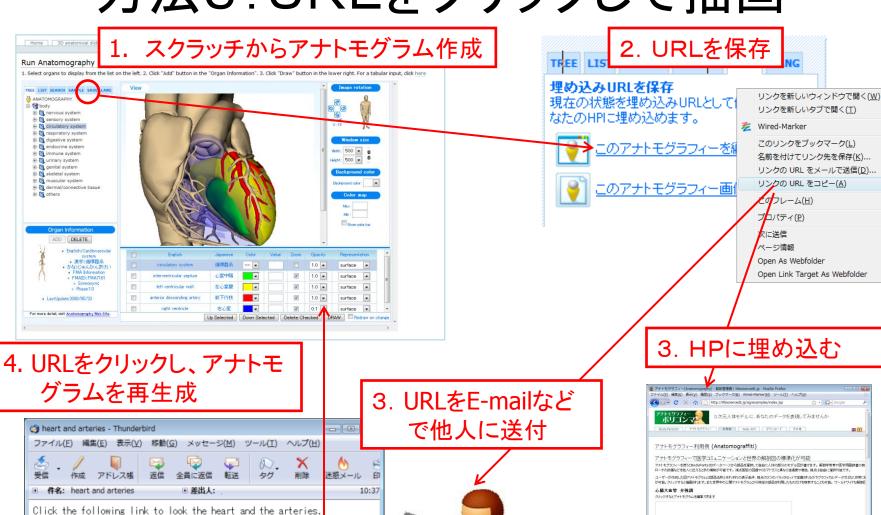


方法1. アナトモエディタで作成





方法3:URLをクリックして描画



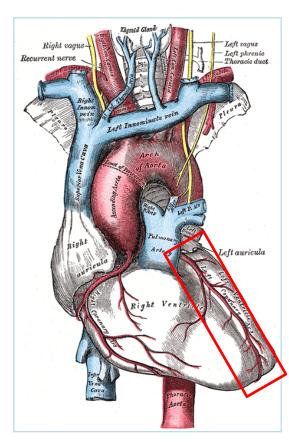
http://lifesciencedb.jp/ag/?tp_ap=08020601:IF34501505000500FFFFFF1NANANA

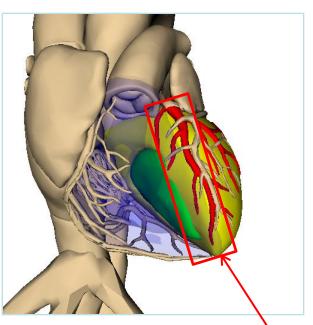
サーバに新着メッセージはありませんでした。

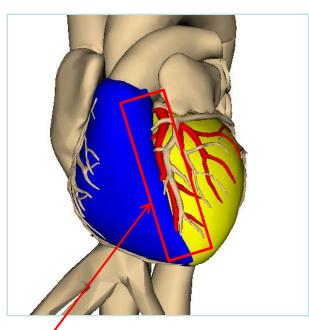


想定利用例1

・ 臓器・器官の位置、形状(構造情報)の確認







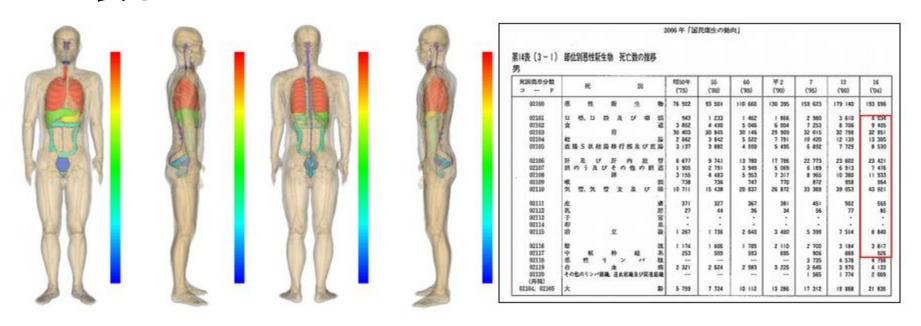
前下行枝の走行、終点がどこかはっきりわかる

Gray's Anatomy Fig. 505



想定利用例2

- データのマッピング
 - 臓器別数値(例:発現量、がん死亡率)のヒートマップ 表示



臓器をクリック(pickup)して関連情報へのリンクをたどれるような機能を追加予定



目次

- アナトモグラフィー(Anatomography)の仕組み
- 想定利用例
- BodyParts3D(3次元解剖学用語データベース)
 - 旧ポリゴンマン辞書(~6/30)
- ・ 今後の開発予定
- 基本的な使い方のデモ(復習)



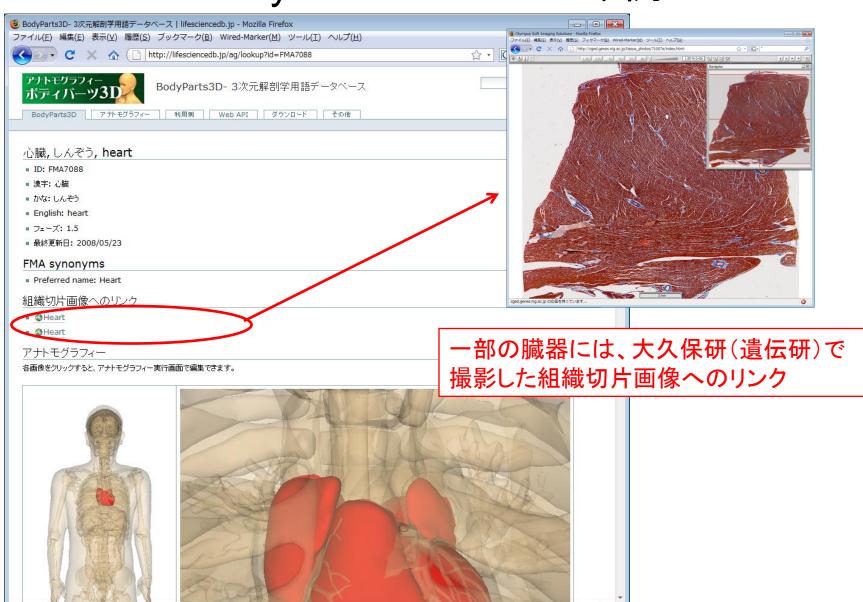
BodyParts3D(3次元解剖学用語DB)





完了

BodyParts3Dのエントリ例





フェーズ3データ(0臓器)

「BodyParts3D」構築作業の流れ



約8400語、左右分けるともっと



BodyParts3Dの進捗

BodyParts3D登録解剖学用語一覧

全用語

- 五十音順
- 最終更新日順

臓器·器官系(Organ System)単位

「用語数」をクリックすると、その臓器・器官系(Organ System)を構成する臓器名が表示されます。

漢字	かな	English	用語数			
			フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	合計
神経系	しんけいけい	nervous system	43	0	0	43
感覚器系	かんかくきけい	sensory system	13	0	0	13
循環器系	じゅんかんきけい	cardiovascular system	60	45	0	105
呼吸器系	こきゅうきけい	respiratory system	3	43	0	46
消化器系	しょうかきけい	alimentary system	29	0	0	29
内分泌系	ないぶんぴつけい	endocrine system	13	0	0	13
免疫系	めんえきけい	immune system	3	0	0	3
泌尿器系	ひにょうきけい	urinary system	9	0	0	9
生殖系	せいしょくけい	genital system	16	0	0	16
骨格系	こっかくけい	skeletal system	73	0	0	73
筋肉系	きんにくけい	muscular system	3	0	0	3
皮膚/結合組織	ひふ・けつごうそしき	dermal/connective tissue	4	1	0	5
その他	₹ の	others	4	0	0	4
合計			273	89	0	362

フェーズ2以上

現在: 循環器、呼吸器

今後予定順:

骨格系

消化器、泌尿器、生殖系

神経系、感覚器系

筋肉系

フェーズの定義

- フェース1: ◇数値人体モデルデータベース(独立行政法人情報通信研究機構らが開発)の形状を、同家変えずに細分化したデータ
- フェーズ2: フェーズ1データを、メディカルアーティストが、位置関係や形態を大きく損なうことなく、人体解剖模型・図譜等を参考に作った精密データに臓器器官単位で置換したデータ
- フェーズ3: フェーズ2データを、臨床医学研究者がキュレーションし、臨床医学研究者の解剖学知識と矛盾のないものにしたデータ



今後の開発目標

- Anatomography
 - Pickup機能(臓器単位)
 - -マーキング機能(座標点単位)
 - アノテーション(臓器名、リンク情報)吹き出し表示
 - 表示の高速化
- BodyParts3D
 - 用語(臓器モデル)数の追加と精密化
 - ・フェーズ3についてはMDによるアノテーション
 - フェーズ2, 3ポリゴンデータの公開
 - ・クリエイティブコモンズの「表示、非営利、継承」の予定



開発体制

- DBCLS内開発チーム
 - 三橋 信孝 (専任開発リーダー): 解剖学用語辞書整備、 レンダリングサーバ構築、ホームページ作成
 - 藤枝 香 (専任メディカルアーティスト): 臓器形状データ作成、 データ名称付与、 臓器関係編集
 - 大久保公策 (開発責任者): 原案、 解剖学監修
- 外部開発分担企業
 - 株式会社 エムアイシー: ラフモデリング、 計測データ入力
 - 株式会社 ケイズデザインラボ: 3Dエディター指導、 ラフモ デリング、 計測データ入力
 - 株式会社 ビッツ: アナトモエディタ画面デザインおよび作成